

Title	エルンスト・トレルチの個人蔵書：調査報告
Author(s)	ザビーネ・ヴァーグナー編著，深井智朗編訳
Citation	聖学院大学総合研究所紀要，No. 45
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=2024
Rights	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

エルンスト・トレルチの個人蔵書——調査報告

ザビーネ・ヴァーグナー 編著

深井智朗 編訳

〔1. 編訳者による解説〕

エルンスト・トレルチが研究のために用いていた個人蔵書については、彼の友人や家族、その後の研究者たちの証言によつてかなりの数であつたことが知られている。⁽¹⁾ 彼は当時ベルリンでもっとも知られた蔵書家であり、書評家のひとりであつた。しかし彼とその家族はそれらのかなりの部分を第一次大戦後の今日では想像もできないインフレの故に手放さねばならなかつたことも知られている。⁽²⁾ さらに彼の死後、それらの蔵書のうち（おそらく全てではなく一部）が、彼が所属していたベルリン大学哲学部に寄贈された。⁽³⁾ トレルチはベルリン大学の哲学部の教授であつたが、彼の講座、すなわち「キリスト教の文化と歴史及び社会の哲学についての講座」は、いわば文学部でキリスト教神学を教えるようなものであり、⁽⁴⁾ カール・バルトが言うような意味での「神学の哲学への解体」ではなかつた。そのためにトレルチの蔵書は他の哲学の同僚のそれとは少し違つていたのであり、彼の死後それを受け取つた学部図書館は新しい分類を必要としたほどなのである。

現在まで保存されている約二百冊のトレルチの個人蔵書から、トレルチの思想的傾向や彼の研究状況を読み取ることができないし、そのようなことは不可能であろう。しかし他方でトレルチの個人蔵書から読みとれるいくつかの書誌的情報があり、またザビーネ・ヴァーグナーはベルリン大学からミュンヘン大学に貸し出された蔵書の全てに目を通すことで、それぞれの蔵書の状態、すなわち書き込みや購入情報などについても調べることが出来たので、これらの書を彼がどのように読み、取扱ったのか、ということをおぼろげ程度知ることができる。以下にそのいくつかの点を指摘しておきたい。

第一に本蔵書目録から読み取ることができる情報は、トレルチはハイデルベルク時代からの関係もあり、ゲオルク・イエリネットク（本蔵書目録167-170）⁽⁵⁾やマックス・ヴェーバー（本蔵書目録35）⁽⁶⁾等他学部の人たちの書物を比較的に丁寧に読んでいたということである。その読書範囲は極めて広範囲に及ぶ。それは一方で学問分野についても言えることであり、他方で歴史的視野においても言えることである。トレルチの読書は学際的であり、また古代から現在の諸問題にまでわたっている。

また当然のことであるが、同時代の神学者、A・フォン・ハルナック（本蔵書目録156, 157）⁽⁷⁾、R・ゼーベルク（本蔵書目録091）、A・シュヴァイツァー（本蔵書目録241）⁽⁸⁾から著書を送られ、それを丁寧に読んでもある。たとえばシュヴァイツァーの書物の書き込みの中には「終末論こそ問題である」というアンダーラインの付いた見出しに続いて一七行にわたるシュヴァイツァーの終末論についての言及と批判がある。

第二にトレルチはこの時代の流行の哲学や諸思想についても敏感に対応しており、ゲオルク・ジンメル（本蔵書目録228, 229）⁽⁹⁾やエルンスト・ブロッホ（本蔵書目録002）、カール・ヤスパース（本蔵書目録166）、マックス・シェーラー（本蔵書目録047）の著作を購入し、あるいは著者から送られ、それらを丁寧に読み、理解していた、ということである。それらの著作へのトレルチの書き込みがそのことを示している。またジンメルの書物の扉裏にはジンメルからの手

紙にあつた質問が書き込まれ、二人が直接会う予定であつた待ち合わせ場所と、時間と、乗るべき電車が記されている。

さらに彼はかなり早い段階からセーレン・キェルケゴールについての研究書を読んでいた(本蔵書目録135)ことがわかる。そのことはトレルチのF・ゴーガルテンの見方からも理解できることであり、また本蔵書目録のリストからも確認できる⁽¹⁰⁾。この書物の書き込みの中にゴーガルテンの名前を見出すことができる。

第三にトレルチはドイツ語の書物のみならず、英語、フランス語、オランダ語の書物を比較的丁寧に読みこなしていたということである。例えばオランダ語のものではアブラハム・カイパーの(本蔵書目録180)著作を読んでいることがわかる。トレルチの歴史研究については、一次資料に寄らないものが多いのではないかという批判がある。それは正しい面もあるが、彼は例えば一八世紀の啓蒙思想の研究においてはドイツやフランスだけでなく、イギリスや北欧、イタリアやスペインの研究や一次資料にも丁寧にあたつてゐることがこの蔵書リストから知ることができる。

第四に、ベルリン大学哲学教授であつたトレルチは多くの書物を寄贈されていたということであり、そしてその多くを読んでゐたということである。新しいトレルチ著作集にはトレルチが書いた書評が数多く収録されているが、トレルチはその時代の有名な蔵書家であつただけではなく、読書家でもあり、書評家でもあつた、ということである。

この蔵書リストは、トレルチの著作目録(また後に全集に全て収録されるであろう)の中に見出される彼の書評リストと合わせて利用する時に意味のある用い方が可能になる⁽¹¹⁾。今回の蔵書リストのうち、彼のゲッティンゲン時代以後に出版されているもので現存する書物のうち実に五二パーセントが彼自身によつて書評されており、また、著者あるいは出版社から献呈された書物の六八パーセントは書評されている。

第五に、トレルチはアジアの宗教や政治、経済システム、とりわけ日本の宗教と歴史についての書物を持っていたということが分る(本蔵書目録20)。トレルチは彼のいわゆる『社会教説』の中で、内村鑑三の『余は如何にしてキリ

スト者となりし乎』を英文で読み引用しているが、トレルチの日本理解について、その蔵書と著作における言及などを用いて断片的であっても調査することは可能であるかもしれない。少なくともトレルチがこの時代にドイツ語や英語で書かれ、資料的にも制約があり、断片的な日本研究のどれに依存していたのかを知ることができるところであろう。

最後にこの調査を行ったのは、新しいトレルチ著作集の編集委員でもあるザビーネ・ヴァーグナーである。その報告は Sabine Wagner, Die Privatbibliothek von Ernst Troeltsch: Forschungsergebnisse. In: Mitteilungen der Ernst Troeltsch Gesellschaft, XII (1999), Augsburg Hrg. von Friedrich Wilhelm Graf, 33-68 に掲載されている。詳細なリストを作成したヴァーグナーはその当時ミュンヘン大学プロテスタント神学部の学問的協力者 (Wissenschaftliche Hilfskraft) であった。

訳者は二〇〇六年一月にミュンヘンとベルリンとを訪問した際に、このリストの修正改訂版をヴァーグナー氏より受け取り、さらに同年ベルリンの哲学部図書館で不明な点を再調査して、トレルチの書き込みなどをコピーし、『エルンスト・トレルチ協会年報』に印刷された資料を部分的に訂正し、本報告を翻訳することにした。また『エルンスト・トレルチ協会年報』は毎回四〇〇部だけ印刷され、会員に配布される簡易製本の雑誌で、多くの大学図書館には蔵書されていないので、今回翻訳することにした。

古いコンピュータのワープロソフトで作成された版組は既に破棄されていたので、資料部分のドイツ語リストの入力はアウクスブルク大学在学中の長澤慶子氏が改めてしてください、その校正はアウクスブルク大学の Matthias Vossler 氏がしてくれた。本書の翻訳許可 (翻訳の版權) は当時アウクスブルク大学の第一哲学部教授であり、現在はミュンヘン大学プロテスタント神学部教授であり、本年報の編者であるフリードリッヒ・ヴィルヘルム・グラーフ教授のご好意によって聖学院大学総合研究所に譲渡された。」

〔2. 調査を行い、蔵書目録を整理、編集したザビーネ・ヴァーグナーによる解説〕

エルンスト・トレルチが亡くなった一九二三年と一九三七／三八年の間に、彼の個人蔵書、少なくともその一部は、ベルリンのフリードリッヒ・ヴィルヘルム大学（現在のフンボルト大学）の哲学講座の所有に移された。このことは、当時の講座の実務責任者であったニコライ・ハルトマンが大学の年報に書いた哲学講座についての報告の中で次のように書いている。「これまで未整理であったエルンスト・トレルチの蔵書は、既存の分類法や歴史による区分を解消してしまった」。この整理は、「既にその前の年報で報告されていた講座図書室に新しい分類体系を生じさせることになった」（原注1）のである。

一九四四年に大学は閉鎖された。大学の校舎と研究所は戦争によって甚大な損傷を受けた。第二次世界大戦の終り頃には哲学講座の図書も多くは疎開させられており、それによってこれらの書物がすべて喪失してしまうことだけは免れることができたのである。

かつてのエルンスト・トレルチの個人蔵書であった時から今日に至るまでに確認されている蔵書の主要な部分は、現在では、（ウンター・デン・リンデン通り六番の）哲学講座図書室の書庫に所蔵されている。そこには約二百冊の書物が保存されており、それらは図書館司書のG・ミュラー博士の面倒であるにもかかわらず協力的な支援のおかげで、それだけ分離されて配列されている。これらの書物はミュンヘンのエルンスト・トレルチ著作集の編集委員会による貸し出し要請によって、今回自由に手に取ることができた。

これらの書物には、「プロイセン政府によって取得されたエルンスト・トレルチの蔵書」と上書きされ、のり付

けされた紙片が貼られている。これらの書物は、哲学講座の書物として、その他に二つの種類のスタンプが押されている。ひとつはこの資料に押された丸いスタンプで、鷲の紋章があり、それを囲むように「ベルリン大学哲学講座 (Philosophisches Seminar der Universität Berlin)」と書かれている。もうひとつは楕円のスタンプで後にかつてのスタンプの上に、あるいはそれと並んで押されており、そこには「ベルリンのフンボルト大学・図書館・哲学講座」(Humboldt-Universität zu Berlin – Bibliothek – Institut für Philosophie) と書かれている。これらの二つのスタンプは一九四九年以後にこのような形になったのである。というのも一八一〇年に創設されたフリードリヒ・ヴィルヘルム大学は一九四九年になってヴィルヘルム・フォン・フンボルト大学と改名されたからである。

ごく少数の例外であるが、第三の丸型のスタンプが見出され、それには「フンボルト大学・哲学講座Ⅰ・ベルリン」(Humboldt-Universität – Philosophisches Seminar I zu Berlin) と書かれている。

書庫に保存されているエルンスト・トレルチの個人蔵書に由来する全ての書物には規定の番号付けがなされている。これらの番号は本の背表紙に貼られている。それらの番号はおそらく分類法によっているだけでなく、アルファベーター順に並べられている。この「4237番」から始まり、「5016番」で終わっている番号は、トレルチの個人蔵書固有の番号である。しかしただ約二百冊しか残されていないということは、もしかすると図書館の疎開などによつてその大半が失われてしまったということなのかもしれない。

相互に関連している一連の番号をもつたこれらの書物以外に、製本の装丁からそれらが同一のものであることがわかる、別の蔵書が存在している。すなわち現在のベルリンのフンボルト大学の福音主義神学部の書庫(ザルツファー通り一四番)には、講座の遺品カタログ(ヴァイセン通り二八番)とは別に整理されていた、エルンスト・トレルチの当時の個人蔵書約七〇冊が見出される。このことは、図書館長であるE・プリュマヒャー博士がわれわれの研究のためにご親切にも提示してくださったことである。

これらの書物が形式上共通の印を持っていないということは奇異な点である。これらの書物には「エルンスト・トレルチ」、あるいは「トレルチ」という名前のスタンプを見出すことができる。またこれらの書物の中にはさまざま異なるスタンプを見出すことができる〔以下はその種類である〕。

全ての書物には丸型の「ベルリン大学 組織―神学講座」(Systematisch-theologisches Seminar der Universität Berlin)と書かれたスタンプが押されておる。

これらは、後に「ベルリンのフンボルト大学・大学図書館・神学用図書館分室」(Humboldt-Universität zu Berlin-Universitätsbibliothek-Zweigbibliothek Theologie)という文章のその他のスタンプによって、更新されていく。

ごく稀であるが、鉤十字の紋章を中央に描いた鷲の紋章のまわりに「ベルリン大学の組織―神学講座」(Systematisch-theologisches Seminar der Universität Berlin)と書かれたものが見出される。

ただ一冊であるが「ベルリンのフンボルト大学旧約学講座」(Alttestamentliches Seminar-Humboldt Universität Berlin)と書かれたスタンプが押されたものがある。

すべての書物には、組織―神学の図書館の内の事項分類のためのさまざま古い記号が書き入れられている。

(原注1) Chronik der Friedrich-Wilhelm-Universität zu Berlin. April 1937/März 1938. ヴァルター・ヴィーネルト博士による学部長報告の中で報告されている。

〔3. エルンスト・トレルチの蔵書リスト〕

かつてエルンスト・トレルチによつて所有されており、現在ベルリンのフンボルト大学の神学部の図書館の書庫において見出される全ての書物は以下の通りである。

〔リストの番号は訳者が付した。ザビーネ・ヴァーグナーのリストに加えて訳者の再調査によつて明らかになったトレルチの著作も付け加えてある。著作リストの最後に付されている分類記号は、蔵書の背表紙にある分類記号である。また（ ）に付されたコメントはヴァーグナー夫人が付したもので、それぞれの書物の保存状態やトレルチがその書物をどのように扱ったかが理解できるように情報を短く記している。ちなみに本論文中、「 」内の文章は訳者が補ったものである。〕

001. Berger, Arnold E.: Die Kulturaufgaben der Reformation. Einleitung in eine Lutherbiographie, Berlin: Ernst Hofmann & Co., 1895. KG R 4950b
(本書中に傍線が引かれている)
002. Bloch, Ernst: Thomas Münzer als Theologe der Revolution. München: Kurt Wolff Verlag A. G., 1921 KG Rw 118a
(著者による献呈の辞が記されている)
003. Bouquet, Alan Coates: Is Christianity the final religion? A can did enquiry with the materials for an opinion, London: Macmillan and Co., 1921 ST Da 135

(本文中に傍線が引かれている)

004. Breyzig, Kurt: Kulturgeschichte der Neuzeit. Vergleichende Entwicklungsgeschichte der führenden Völker Europas und ihres sozialen und geistigen Lebens, Band I, Berlin: Georo Bondi (原著謄記を修正), 1900, Band 2.1 und 2.2, 1991
ST Vb 85

(第一巻には、本文中に傍線が見られる。第二巻第一部と第二部には、本文中に傍線が引かれており、さらに頁余白に複数の書き込みが見られる)

005. Breyzig, Kurt: Die Entstehung des Gottesgedankens und der Heilbringer, Berlin: Georg Bondi, 1905
MW Kc 14
(頁余白に複数の書き込みが見られる、また本文中に傍線が引かれている)

006. Calvinreden aus dem Jubiläumsjahr 1909, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1909
KG Rp 281
(一〇六頁からはただ二三八頁と二四二頁に傍線が引かれているだけである)

007. Canning, Albrecht Stratford Georg: Religious development. An historical inquiry, London: Allen, 1896
MW Lb 6
(本文中に傍線が引かれている)

008. Choisy, Eugène: La Théocratie à Genève au temps de Calvin. Genève: Ch. Eggimann & Cie., 1987 (原著謄記を修正)
KG Rn 13
(本文中に傍線が引かれており、頁余白に複数の書き込みが見られる)

009. Choisy, Eugène: L'état chrétien calviniste a Genève au temps de Théodore de Bèze, Genève: Ch. Eggimann & Co., Paris: Librairie Fischbacher, 1902
KG Rn 14b
(本文中に傍線が引かれている)

010. Clemen, Otto (Hg.): Luthers Werk in Auswahl. Unter Mitwirkung von Albert Leitzmann hg. von Otto Clemen, Band

- 2, Bonn: A. Marcus und E. Weber's Verlag. 1912
 KG R 1080-2b
 (本文中に傍線が引かれてゐる)
011. Dieterich, Albrecht: Nekyia. Beiträge zur Erklärung der neuentdeckten Petrusapokalypse. Leipzig: B. G. Teubner, 1893
 NT Ge 47b
 (本文中に傍線が引かれてゐる)
012. Dieterich, Albrecht: Eine Mithrasliturgie. Erläutert, Leipzig: B. G. Teubner, 1903
 MW De 21
 (本文中に傍線が引かれてゐる)
013. Dieterich, Albrecht: Kleine Schriften. Teilsammlung. Mit einem Bildnis und 2 Tafeln, Leipzig, Berlin: B. G. Teubner, 1911
 MW Dx 13
 (本文中に傍線が引かれており、頁余白に複数の書き込みが見られる)
014. Farnell, Lewis Richard: The evolution of religion. An anthropological study by L. R. Farnell, London: Williams & Norgate, 1905 (=Crown theological library 12)
 MW Kd 7
 (本文中に傍線が引かれてゐる)
015. Fehrlé, Eugen: Die kultische Keuschheit im Altertum, Gießen: Alfred Töpelmann (vormals J. Ricker), 1910 (=Religions-geschichtliche Versuche und Vorarbeiten 6).
 MW Ay 17-6
 (著者による献呈の辞が記されており、本文中に傍線が引かれてゐる)
016. Frank, Gustav: Geschichte der Protestantischen Theologie, Teil 1: Von Luther bis Johann Gerhard, Leipzig: Breitkopf & Härtel, 1862, Teil 2: Von Georg Calixt bis zur Wolff'schen Philosophie, 1865, Teil 3: Von der deutschen Aufklärung bis zur Blüthezeit des Rationalismus 1750-1817. Geschichte des Rationalismus und seiner Gegensätze, 1875, Teil 4:

Die Theologie des neunzehnten Jahrhunderts. Aus dem Nachlasse hg. und mit einem Lebensabriß der Verfassers versehen von George Loesche, 1905. ST Le 3

(第一巻には本文中に傍線が引かれており、最後の頁と表紙裏頁に手書きの要約がある。第二巻の最後の見開き頁には手書きの要約があり、また本文中には傍線が引かれており、注意書きがある。第三巻には本文中に傍線が引かれている)

017. Frick, Heinrich: Die evangelische Mission. Ursprung, Geschichte, Ziel, Bonn, Leipzig: Kurt Schroeder, 1922 (=Bücherei der Kultur und Geschichte 26). MW Nc 22b

(著者による献呈の辞が記されている)

018. Fried, Alfred H.: Handbuch der Friedensbewegung, Teil 1: Grundlagen, Inhalt und Ziele der Friedensbewegung, 2., gänzlich umgearbeitete und erweiterte Auflage, Berlin, Leipzig: Verlag die „Friedens-Wart.“ 1911. Teil 2: Geschichte, Umfang und Organisation der Friedensbewegung, 1913. PT Ed 32

(トレルチの自筆の署名、頁余白に書き込みあり)

019. Gastrow, Paul: Joh. Salomo Semler in seiner Bedeutung für die Theologie mit besonderer Berücksichtigung seines Streites mit G. E. Lessing. Von der Karl Schwarz-Stiftung gekrönte Preisschrift, Gießen: Alfred Töpelmann (vormals J. Ricker), 1905. KG Tg 6830b

(本文中に傍線が引かれている)

020. Hass, Hans: Japans Zukunftsreligion, 2. Auflage, Berlin: Curtius, 1907. MW Gy 6

(本文中に傍線が引かれている)

021. Hausrath, Adolf: Richard Rothe und seine Freunde, Band 1, Berlin: G. Grote'sche Verlagsbuch handlung, 1902, Band

2, 1906.

KG Vc5274

(本文中に傍線が引かれている、また注意書きあり)

022. Heinrich, J [ohann] B.: Dogmatische Theologie. Ab Band 7 fortgeführt von Constantin Gutberlet, Band 8, Mainz: Kirchheim, 1897. ST Dr 45

(本文中に傍線が引かれている)

023. Heppé, H [imrich]: Dogmatik des deutschen Protestantismus im sechzehnten Jahrhundert, 3 Bände, Gotha: Friedrich Andreas Perthes, Aktiengesellschaft, 1857. ST Dv 2

(本文中に傍線が引かれており、また頁余白に書き込みあり。〔トレルチによるものかどうか疑問である〕)

024. Hermann, Wilhelm: Römische und evangelische Sittlichkeit. 3.,vermehrte Auflage, Marburg: N. G. Elwert'sche Verlagsbuchhandlung, 1903. ST Ev 46³

(本文中に傍線が引かれており、また頁余白に書き込みあり)

025. Hoensbroech, [Paul] Graf von: Moderner Staat und römische Kirche. Ein kirchenpolitisches Programm auf geschichtlicher Grundlage, Berlin: C. A. Schwetschke und Sohn, 1906. KG Uh 37

(本文中に傍線が引かれている)

026. Huegel, Friedrich von: Eternal life. A study of its implications and applications, Edinburgh: Clark, 1912. ST Pc 24

(著者による献呈の辞が記されている)

027. Hülsmann, Jakob: Beiträge zur christlichen Erkenntnis für die gebildete Gemeinde. Aus Aufzeichnungen und Briefen von J. Hülsmann. Neue vermehrte Ausgabe. Mit biographischer Charakteristik und dem Bildnis des Verfassers. Braunschweig: C. A. Schwetschke und Sohn, 1890. ST DB 22b

(著者による献呈の辞が記されている)

028. Luckwaldt, Friedrich: Geschichte der Vereinigten Staaten von Amerika, 2 Bände zusammengebunden in einem Band, Band 1: Die Werdezeit 1507-1848, Band 2: Der Kampf um Einheit und Weltgeltung 1848-1902, Berlin, Leipzig: de Gruyter, 1920.
KG Wh 2

(本文中に傍線が引かれている)

029. Luthers Werk in Auswahl. Unter Mitwirkung von Albert Leitzmann hg. von Otto Clemen, Band 2, Bonn: A. Marcus und E. Weber's Verlag, 1912.
KGR 1018-2b

(本文中に傍線が引かれている)

030. Mahnke, Dietrich: Eine neue Monadologie, Berlin: Reuther & Reichard, 1917 (= Kantstudien, Ergänzungsheft 39)
KG W 84a

(著者による献呈の辞が記されており、最後の頁に手書きの要約がある)

031. Mitscherlich, Waldemar: Der Nationalismus Westeuropas, Leipzig: J. B. Hirschfeld, 1920.
KG Yk 169

(著者による献呈の辞が記されており、本文中に傍線が引かれている)

032. Müller, Friedrich Max: Beiträge zu einer wissenschaftlichen Mythologie. Aus dem Englischen übersetzt von Heinrich Lüders (?). Autorisierte, vom Verfasser durchgesehene Ausgabe, Band 1, 1898, Leipzig: Engelmann, Band 2, 1899.
MW Kb 8

(第二巻の本文中に傍線が引かれている)

033. Müller, Konrad: Die seit Reman über einen israelitischen Urmonotheismus geäußerten Anschauungen disziplin-geschichtlich dargestellt. Inaugural-Dissertation zur Erlangung der Würde eines Lizentiaten der Theologie, Breslau:

- Wilh. Gottl. Korn, 1911. AT Jb 49
 (著者による献呈の辞が記されてゐる)
034. Münsterberg, Hugo: The eternal life, Boston, New York: Houghton, Mifflin and Company, 1905. ST Pf 21
 (著者による献呈の辞が記されてゐる)
035. Neileendam, Michael: Christian Bastholm. Studier over oplysningsens teologi og kirke. Udgivet af selskabet for danmarks kirkehistorie, Kobenhavn: G. E. C. Gad, 1922. KG Wa 11 und KG Km 91
 (著者による献呈の辞が記されてゐる、中表紙に書き込みがある)
036. Neumann, Johannes: Die Gefühle und das Ich, München: Bergmann, 1926 (= Individuum und Gemeinschaft 2). PT Py 3-2
 (本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みがある)
037. Nitzel, Karl: Vom Umgang mit Russen. Gespräche mit einem russischen Freunde, München: Musarion, 1921. OK Wb 5
 (本文中に傍線が引かれてゐる)
038. Nollenius, Friedrich: Die Gefühlswerte. Grundriß einer Psychologie der Tiefe, Leipzig: Johann Ambrosius Barth, 1927. PT Pf 14
 (本文中に傍線が引かれてゐる)
039. Norden, Eduard: Agnostos Theos. Untersuchungen zur Formgeschichte religiöser Rede, Leipzig, Berlin: B. G. Teubner, 1913. NT Fe 109a
 (本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みあり)

040. Oesterreich, Traugott Konstantin: Die Besessenheit, Langensalza: Wendt & Klauwell, 1921. MW Ks 25
 (著者による献呈の辞が記われている)
041. Pretliae, Antti Jaakkob: Drei Versuchungsgeschichten: Zarathustra, Buddha, Christus, Helsinki: Suomal. Tiedekat, 1910.
042. Penck, Albrecht: U. S.-Amerika. Gedanken und Erinnerungen eines Austauschprofessors, Stuttgart: J. Engelhorns Nachf., 1917. KG Wh 1/1
 (本文中に傍線が引かれており、著者による献呈の辞が記されている)
043. Pfeilschifter, Georg (Hg.): Deutsche Kultur. Katholizismus und Weltkrieg. Eine Abwehr des Buches La guerre Allemande et le catholicisme, Freiburg i. Br.: Herder, 1915. KG Sw 39b
 (本文中に傍線が引かれている)
044. Pfeiderer, Otto: Geschichte der Religionsphilosophie von Spinoza bis auf die Gegenwart, 3., erweiterte Auflage, Berlin: G. Reimer, 1893. ST Pe 3³-1b
 (本文中に傍線が引かれており、散発的に頁余白に書き込みがある)
045. Pfeiderer, Otto: Religionsphilosophie auf geschichtlicher Grundlage, 3., neu bearbeitete Auflage, Berlin: G. Reimer, 1896. St Pe 3³-2
 (本文中に傍線が引かれている)
046. Pretliae, Antti Jaakkob: Drei Versuchungsgeschichten: Zarathustra, Buddha, Christus, Helsinki, 1910. MW La 10
 (著者による献呈の辞が記されている)
047. Scheler, Max: Der Formalismus in der Ethik und die materiale Wertheik. Neuer Versuch der Grundlegung eines

- ethischen Personalismus. Sonderdruck aus: Jahrbuch für Philosophie und phänomenologische Forschung 1 und 2, Halle a. d. S.: Niemeyer, 1916. ST Ew 3
 (著者による献呈の辞が記されており、頁余白に書き込みがある)
048. Schliermacher, F [riendrich]: Kurze Darstellung des theologischen Studiums zum Behuf Vorlesungen. Entworfen von F. Schleiermacher, 2., umgearbeitete Ausgabe, Berlin: G. Reimer, 1830. ST D132
 (本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みあり)
049. Schubert, H [ans] von: Beiträge zur Geschichte der evangelischen Bekenntnis- und Bündnisbildung 1529/30. Teil 1 und 2, Sonderabdruck aus: Zeitschrift für Kirchengeschichte 29 (1907), Teil 3 und 4, Sonderabdruck aus: Zeitschrift für Kirchengeschichte 30 (1908), Teil 5 und 6, ebd., Teil 7 und 8, ebd., Gotha: Friedrich Andreas Perthes, Aktiengesellschaft. KG Ra 668
 (本文中に傍線が引かれてある)
050. Streitwolf, Friedrich Wilhelm: Libri symbolici ecclesiae catholicae. Coniuncti atque notis prolegomenis indicibusque instructi opera et studio Frid. Guil. Streitwolf et Rudolph Ernest. Klener, Göttingae: Dietrich, 1838 ST Fq 14b
 (つくまれに本文中に傍線が引かれてある)
051. Tiele, C [ornelis] P.: Elements of the science of religion. BY C. P. Tiele, Band 1.1: Morphological, Edinburgh, London: W. Blackwood, 1897. MW Af6
 (本文中に傍線が引かれてある)
052. Wehrung, George: Die Dialektik Schliermachers, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1920. ST Gb 72
 (本文中に傍線が引かれてある)

053. Weingarten, Hermann: Die Revolutionskirchen Englands. Ein Beitrag zur inneren Geschichte der englischen Kirche und der Reformation, Leipzig: Breitkopf & Härtel, 1868.
KG W 84a

(本文中に傍線が引かれている)
054. Ziegler, Leopold: Gestaltwandel der Götter, Berlin: Fischer, 1920.
MW Kc 3

(本文中に傍線が引かれている)
055. Ziegler, Leopold: Der ewige Buddha. Ein Tempelschriftwerk in vier Unterweisungen, Darmstadt: Reichl, 1922.
MW Lf 9

(本文中に傍線が引かれている)

以下は「古典」というカテゴリーでまとめられている(一九〇三年から一九二〇年)

056. Dieterich, Albert: Volksglaube und Volksbrauch in Altertum und Gegenwart, 1903.

057. Kaerst, Julius: Die Entstehung der Vertragstheorie im Altertum, 1909.

058. Pohlenz, Max: Vom Zorne Gottes. Eine Studie über den Einfluß der griechischen Philosophie auf das alte Christentum, Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 1909 (= Forschungen zur Religion und Literatur des Alten und Neuen Testaments 12).

059. Wendland, Paul: Hellenistic ideals of salvation in the light of ancient anthropology, 1913.

060. Kroll, Josef: Die Lehren des Hermes Trismegistos, Inaugural-Dissertation zur Erlangung der Doktorwürde, genehmigt von der Philosophischen Fakultät der Westfälischen- Wilhelms- Universität Münster, Münster i. Westf.,

1913. (Teildruck, vollständig als: Beiträge zur Geschichte der Philosophie des Mittelalters 12)

061. Frank, Erich, Mathematik und Musik und der griechische Geist, 1920.

MMW Dx 12

(本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みあり)

以下は「イスラム教」というカテゴリーでまとめられている (一九〇三年から一九二〇年)

062. Becker, Carl H.: Beiträge zur Geschichte Ägyptens unter dem Islam 2, Strassburg: Karl J. Trübner, 1903.

063. Becker, Carl H.: Panislamismus. Sonderabdruck aus: Archiv für Religionswissenschaft 7 (1904), Leipzig: B. G. Teubner, 1904.

064. Becker, Carl H.: Die Kanzel im Kultus des alten Islam. Sonderabdruck aus: Orientalische Studien 1 (1906), Gießen: Alfred Töpelmann (vormals J. Ricker), 1906.

065. Becker, Carl H.: Islam. Sonderabdruck aus: Archiv für Religionswissenschaft 11 (1908), Leipzig: B. G. Teubner, 1908.

066. Becker, Carl H.: Der Islam als Problem. Sonderabdruck aus: Der Islam, Zeitschrift für Geschichte und Kultur des islamischen Orients 1 (1910), Straßburg: Karl J. Trübner, 1910.

067. Becker, Carl H.: Materialien zur Kenntnis des Islam in Deutsch-Ostafrika. Separatdruck aus: Der Islam, Zeitschrift für Geschichte und Kultur des islamischen Orients 2 (1911), Strassburg: Karl J. Trübner, 1911.

068. Becker, Carl H.: Christliche Polemik und islamisch Dogmenbildung. Separat-Abdruck aus: Zeitschrift für Assyriologie und verwandte Gebiete 26 (1911), Strassburg: Karl J. Trübner, 1911.

069. Becker, Carl H.: Vorbericht über die islamkundlichen Ergebnisse der Innerafrika-Expedition des Herzogs Adolf

Friedrich von Mecklenburg. Vortrag gehalten auf dem 16. Internat. Orientalistenkongress zu Athen, Mai 1912. Sonderabdruck aus: Der Islam, Zeitschrift für Geschichte und Kultur des islamischen Orients 3 (1912), Strassburg: Karl J. Trübner, 1912.

070. Becker, Carl H.: Islam. Sonderabdruck aus: Archiv für Religionswissenschaft 15 (1912), Leipzig, Berlin: B. G. Teubner, 1912.

071. Becker, Carl H.: Deutschland und der Islam, in: Der Deutsche Krieg, Politische Flugschriften 3 (1914), Stuttgart, Berlin: Deutsche Verlags-Anstalt, 1914.

072. Becker, Carl H.: Der türkische Staatsgedanke. Vortrag gehalten in der Gehe-Stiftung zu Dresden am 15. Januar 1916. Als Manuskript gedruckt, Leipzig, Dresden: B. G. Teubner, 1916 (= Vorträge der Gehe-Stiftung zu Dresden 8).

(本文中に傍線が引かれており、注意書がある) (頁念口に書かたがある)

073. Becker, Carl H.: Der Islam im Rahmen einer allgemeinen Kulturgeschichte. Sonderabdruck aus: Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft 76 (1922), Leipzig: F. A. Brockhaus, 1922.

(本文中に傍線が引かれており、注意書がある)

074. Sperber, Jakob: Die Schreien Muhammads an die Stämme Arabiens. Inaugural-Dissertation zur Erlangung der Doktorwürde, genehmigt von der Philosophischen Fakultät der Friedrich-Wilhelms-Universität zu Berlin, Berlin: Reichsdruckerei, 1916.

075. Ritter, Hellmut: Ein Arabisches Handbuch der Handelswissenschaft. Inaugural-Dissertation zur Erlangung der Doktorwürde, genehmigt von der Philosophischen Fakultät der Rheinischen Friedrich-Wilhelms-Universität zu Bonn. Berlin: Georg Reimer, 1916. いねまづの書物かゝの扱を刷つてある。Der Islam, Zeitschrift für Geschichte

- und Kultur des islamischen Orients 7 (1916), Straßburg: Karl J. Trübner, 1916.
 (つれにはC・H・スッカーからの献呈の辞が記されている)
076. Schwarzlose, Karl: Die Quellen in geschichtsphilosophischer Würdigung zu Herders Stellung zur Kultur des mittelalterlichen Islam. Entwickelt aus den „Ideen zur Philosophie der Geschichte der Menschheit“ (1784-1791) und den „Zerstreuten Blättern“ – „Persepolitische Briefe“ 1787-1798 dritte Sammlung. Inaugural-Dissertation zu Erlangung der Doktorwürde der hohen Philosophischen Fakultät der Friedrich-Alexanders-Universität Erlangen, Borna, Leipzig: Robert Noske, 1918.
 MW Cx 6
- 以下は「神学諸科目の方法論について」というカテゴリーにまとめられている(一八八九年から一九一九年)
077. Bousset, W [ihelm]: Religion und Theologie. Vorlesung, gehalten am 20. Juni 1919. (講義原稿として印刷されたもの)
078. Thieme, K [arl]: Über den Gegenstand der Theologie. Sonderabdruck aus: Zeitschrift für wissenschaftliche Theologie LI NF XVI, (1909), 1909, S.217-248.
079. Duhm, Bernhard: Über Ziel und Methode der theologischen Wissenschaft. Antrittsvorlesung in der Aula der Universität zu Basel am 7. Mail 1889 gehalten, Basel: Benno Schwabe Schweighauserisch Verlagsbuchhandlung, 1899.
080. Wrede, W [illiam]: Über Aufgabe und Methode der sogenannten Neutestamentlichen Theologie, Göttingen: (本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みあり)

Vandenhoeck und Ruprecht, 1897.

(「著者から献呈された」という印が押されている。本文中に傍線が引かれている)

081. Köhler, [Walther]: Zur Philosophie der Kirchengeschichte. Separat-Abdruck aus: Theologische Rundschau 18 (1915), Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1915.

082. Krüger, Gustav: Was heißt und zu welchem Ende studiert man Dogmengeschichte?, Freiburg i. Br., Leipzig: Akademische Verlagshandlung von J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1895.

(本文中に傍線が引かれている)

083. Koeniger, Albert Mich.: Voraussetzungen und Voraussetzungslosigkeit in Geschichte und Kirchengeschichte, München: Verlag der J. J. Lentnerschen Buchhandlung (E. Stahl), 1910 (= Veröffentlichungen aus dem Kirchenhistorischen Seminar München III. 9).

084. Reischle, [Max]: Systematische Theologie. Enzyklopädie. Theologische Methodenteile. Separat-Abdruck aus: Theologische Rundschau 7 (1904), Tübingen, Leipzig: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1904.

(本文中に傍線が引かれている)

085. Jülicher, Adolf: Moderne Meinungsverschiedenheiten über Methode, Aufgaben und Ziele der Kirchengeschichte. Rede gehalten beim Antritt des Rektorats am 13. Oktober 1901. Marburg: N. G. Elwert'sche Verlagshandlung, 1901.

ST DI 13

以下は「スイス」というカテゴリーによつてまとめられている(一九〇四年から一九二二年)

086. Vischer, Eberhard: Die Lehrstühle und der Unterricht an der theolog. Fakultät BASELES seit der Reformation. Sonderabdruck aus: Festschrift zur Feier des 450 jährigen Bestehens der Universität Basel, Basel: Helbig & Lichtenhahn, 1910.
(手書中の目次あり)
087. Favre, André: Un théologien mystique vaudois au XVIII siècle. Jean-Philippe Dutoit (1721-1793). Thèse présentée à la Faculté de théologie de l'Église libre du Canton de Vaud. Genf: Imprimerie Albert Kündig, 1911.
(著者による献呈の辞が記われている)
088. Wernle, P[aul]: Wernhard Huber, der helvetische Grossrat und Basler Dichter. Sonderdruck aus: Basler Zeitschrift für Geschichte und Altertumskunde 20 (1921), Basel: Historische und Antiquarische Gesellschaft, 1921.
089. Pfister, Oskar: Die gegenwärtige Metamorphose der theologischkirchlichen Parteien in der Schweiz. Eine kritische Orientierung. Separat-Abdruck aus: Schweizerische theologische Zeitschrift 21 (1904), Zürich: August Frick, 1904.
(著者による献呈の辞が記されている)
090. Wendland, Johannes: Politik und Moral in Deutschland und in der Schweiz. Sonderabdruck aus: Preussische Jahrbücher 164 (1916), Berlin: Georg Stilke, 1916.
KG Qg 18
(著者からの挨拶が記されている)

以下の書物は、プロイセン政府より取得されたエルンスト・トレルチの蔵書に由来する書物。これらはガブリエル氏によつて所有されていた時代に発見された（これらの書物には次のような書物の所有者を示す「蔵書票」が付されている。「プロイセン政府より取得されたエルンスト・トレルチの蔵書」）。

091. Seeberg, Reinhold: Lehrbuch der Dogmengeschichte, 2. Hälfte: Die Dogmengeschichte des Mittelalters und der Neuzeit, Erlangen, Leipzig: A. Deichert'sche Verlagsbuchhandlung Nachf. (Georg Böhmé), 1898.
 (本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みあり)

以下の書物はエルンスト・トレルチの蔵書の中から、プロイセン政府によって取得されたもので、ベルリンのフンボルト大学の古典哲学部の図書館の書庫に保存されていた時代に見出された。

092. Allgeyer, Julius: Anselm Feuerbach. Sein Leben und seine Kunst. Mit einem Selbstbildnis des Künstlers und 38 Text-Illustrationen, 2 Bände, 2. Auflage auf Grund der zum erstmal benützten Originalbriefe und Aufzeichnungen des Künstlers. Aus dem Nachlasse des Verfassers hg. und mit einer Einleitung begleitet von Carl Neumann, Berlin, Stuttgart: W. Spemann, 1904.
093. Altaraz, Isaak: Reine Soziologie. Darstellung und Kritik der typischen Versuche zur Schaffung einer philosophischen Sozialwissenschaft. Inaugural-Dissertation zur Erlangung der Doktorwürde genehmigt von der philosophischen Fakultät der Friedrich-Wilhelms-Universität zu Berlin, Berlin: Arthur Schölen, 1918.
 (著者の手記の辞が記された)
 (最後の頁に注意書きあり)
094. Baader, Franz R. von: Fermenta cognitions, Berlin: G. Reimer, 1822.
095. Bab, Julius: Fortinbras oder Der Kampf des 19. Jahrhunderts mit dem Geiste der Romantik. Sechs Reden von Julius

- Bab, Berlin: Georg Bondi, 1914.
(本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みあり)
096. Barth, Paul: Die Philosophie der Geschichte als Soziologie, Teil 1: Grundlegung und kritische Übersicht, 3. Und 4., wiederum durchgesehene und erweiterte Auflage, Leipzig: O. R. Reisland, 1922.
(本文中に傍線が引かれており、まれに頁余白に書き込みあり。それがトレルチによるものかどうかは疑問)
097. Bartók, G. Von: Die Philosophie Karl Böhm's, Sonderabdruck aus: Zeitschrift für Philosophie und philosophische Kritik 165, Leipzig: Johann Ambrosius Barth, 1922 (?).
(著者による献呈の辞が記されている)
098. Bauer, Wilhelm: Einführung in das Studium der Geschichte, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1921.
(本文中に傍線が引かれており、まれに頁余白に書き込みあり)
099. Becher, Erich: Über physiologische und psychistische Gedächtnishypothesen, Sonderabdruck aus: Archiv für die gesamte Psychologie 35 (1916), Leipzig: Engelmann, 1916.
100. Bekker, Ernst Immanuel: Recht muss Recht bleiben, Heidelberg: Gustav Koester, 1896.
101. Below, G[eorg] von: Die neue historische Methode. Separatdruck aus: Historische Zeitschrift 81 (1898), München, Leipzig: R. Oldenbourg, 1898.
(本文中に傍線が引かれており、注意書きあり)
102. Below, G[eorg] v[on]: Über Theorien der wirtschaftlichen Entwicklung der Völker, mit besonderer Rücksicht auf die Stadtwirtschaft des deutschen Mittelalters, Historische Zeitschrift 86, N. F. Bd. L.
103. Below, Georg von: Zur Würdigung der historischen Schule der Nationalökonomie. Sonderabdruck aus: Zeitschrift für

Socialwissenschaft 7 (1904), Berlin: Georg Reimer, 1904.

104. Berg, Ernst von: Die ältere russische Komödie. Inaugural-Dissertation zur Erlangung der Doktorwürde, genehmigt von der Philosophischen Fakultät der Friedrich-Wilhelms- Universität zu Berlin, 1916.
105. Beth, Karl: Die Entwicklung des Christentums zur Universal-Religion, Leipzig: Quelle & Meyer, 1913.
(本文中に傍線が引かれてゐる)
106. Beyer, Walther: Die Bedeutung der Persönlichkeit in der Geschichte mit Hinblick auf Julius Belochs Einleitung zur Griechischen Geschichte in der zweiten Auflage. Inaugural- Dissertation zur Erlangung der Doktorwürde der Philosophischen Fakultät der Königlichen Universität Greifswald, Langensalza: Wendt & Klawwell, 1914.
107. Bock, Hermann: Jakob Wegelin als Geschichtstheoretiker, Leipzig: B. G. Teubner, 1902 (=Leipziger Studien aus dem Gebiet der Geschichte 9).
(本文中に傍線が引かれており、注意書もあり、頁余白に書かへ込みあり)
108. Boll, Franz: Die Entwicklung des Astronomischen Weltbildes in Zusammenhang mit Religion und Philosophie. Sonderabdruck aus: Kultur der Gegenwart III.3.3, Leipzig, Berlin: B. G. Teubner, 1913.
(本文中に傍線が引かれてゐる。トールマに於てのみ、この疑問は疑問)
109. Boll, Franz: Die Lebensalter. Ein Beitrag zur antiken Ethologie und zur Geschichte der Zahlen. Mit einem Anhang über die Schrift von der Siebenzahl. Mit zwei Tafeln. Sonderdruck aus: Neue Jahrbücher für das klassische Altertum, Geschichte und deutsche Literatur 31, Leipzig Berlin: B.G.Teubner, 1913.
110. Borinski, Karl: Die Weltwiedergeburtsidee in den neueren Zeiten, Teil 1: Der Streit um die Renaissance und die Entstehungsgeschichte der historischen Beziehungsbegriffe Renaissance und Mittelalter. Vorgetragen am 2.

- November 1918, in: Sitzungsberichte der Bayerischen Akademie der Wissenschaften, Philosophisch-philologische und historische Klasse 1 (1919).
111. Brahn, Max: Die Entwicklung des Seelenbegriffes bei Kant. Inaugural-Dissertation zur Erlangung der philosophischen Doctorwürde der hohen philosophischen Fakultät der Ruprecht-Karls-Universität zu Heidelberg. Leipzig: Gebr. Gerhardt
112. Braun, Otto: Vorlesungen über die Methode des akademischen Studiums von Friedrich von Schelling, Leipzig: Quelle & Meyer, 1907.
(本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みあり)
113. Braun, Otto: Geschichtsphilosophie. Eine Einführung, Leipzig: Felix Meiner, 1921 (=Wissen und Forschen. Schriften zur Einführung in die Philosophie 12).
(本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みあり。それがトレルチによるものであるかどうかは疑問)
114. Breyzig, Kurt u. a.: Grundrisse und Bausteine zur Staats- und zur Geschichtslehre. Zusammengetragen zu den Ehren Gustav Schmollers und zum Gedächtnis des 24. Juni 1908 [.] seines siebenzigsten Geburtstages, Berlin: Georg Bondi, 1908.
(まれに本文中に傍線が引かれている)
115. Brotherus, K[arl] R.: Immanuel Kants Philosophie der Geschichte. Helsingfors: Aktiebolaget Handelstryckeriet, 1905.
(本文中に傍線が引かれており、多くの頁余白に書き込みあり)
116. Brunner, Heinrich: Grundzüge der deutschen Rechtsgeschichte, 7. Auflage, nach dem Tode des Verfassers besorgt

- von Ernst Lehmann, München, Leipzig: Duncker & Humblot, 1919.
117. Busse: [Rez.] Eduard von Hartmann: Kategorienlehre, Leipzig: Herm. Haake, 1896. Separat-Abdruck aus: Zeitschrift für immanente Philosophie 3.
118. Carriere, Moriz: Die sittliche Weltordnung, Leipzig: F. A. Brockhaus, 1877.
119. Cohen, Hermann: Rede bei der Gedenkfeier der Universität Marburg zur hundertsten Wiederkehr des Todestages von Immanuel Kant [,] gehalten am 14. Februar 1904 von Hermann Cohen, Marburg: N. G. Elwert'sche Verlagsbuchhandlung, 1904 (=Marburger akademische Reden 10).
(本文中に傍線が多く引かれており)
120. Croce, Benedetto: Goethe. Mit Genehmigung des Verfassers verdeutschl von Julius Schlosser, Zürich, Leipzig, Wien: Amalthea-Verlag, 1920 (=Amalthea-Bücherei 14).
(本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みあり。それがトレルチによるものかどうかは疑問である。)
121. Dibelius, Wilhelm: Charles Dickens. Mit einem Titelbild, Leipzig, Berlin: B. G. Teubner, 1916.
(本文中に傍線が引かれており、注意書きがあり、頁余白に書き込みあり)
122. Dietzel, Heinrich: List's Nationales System und die „Nationnale“ Wirtschaftspolitik. Separatdruck aus: Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik 35 (1912), Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1912.
123. Dilthey, W [Ilhelm] u. a.: Systematische Philosophie. Sonderabdruck aus Teil 1, 6 des Gesamtwertes, Berlin, Leipzig: B. G. Teubner, 1907 (= Die Kultur der Gegenwart).
(本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みあり)
124. Dubois, Jules: Spencer et le principe de la morale, Paris: Fischbacher, 1899.

- (本文中に傍線が引かれており、注意書きがあり、頁余白に書き込みあり)
125. Dühring, E [ugen]: Kritische Geschichte der allgemeinen Principien der Mechanik. Von der philosophischen Facultät Göttingen mit dem ersten Preise der Bencke-Stiftung gekrönte Schrift. Nebst einer Anleitung zum Studium mathematischer Wissenschaften, 3., wiederum erweiterte und theilweise umgearbeitete Auflage, Leipzig: Fues's Verlag (R.Reisland), 1887.
(まれに本文中に傍線が引かれており、四六〇頁に書誌的な情報があり)
126. Dürr, Karl: Ist etwas? Ein philosophischer Dialog, Zürich: Rascher & Cie., 1918.
127. Dvorkák, Max: Idealismus und Naturalismus in der götischen Skulptur und Malerei, München, Berlin: R. Oldenbourg, 1918.
(本文中に傍線が引かれており、注意書きがあり、頁余白に書き込みあり)
128. Eck, Samuel: Religion und Geschichte, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1907.
129. Ehrenberg, Hans: Kants mathematische Grundsätze der reinen Naturwissenschaft. Inaugural-Dissertation zur Erlangung der Doktorwürde einer hohen philosophischen Fakultät der Ruprecht-Karls-Universität zu Heidelberg, Leipzig: J. B. Hirschfeld, 1910.
130. Ehrenberg, Hans: Kritik der Psychologie als Wissenschaft. Forschungen nach den Systematischen Principien der Erkenntnislehre Kants, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1910.
(著者による献呈の辞があり、まれに本文中に傍線が引かれている)
131. Ehrenberg, Hans: Die Parteilung der Philosophie. Studien wider Hegel und die Kantianer, Leipzig: Felix Meiner,

1911.

(著者による獻呈の辞あり)

132. Eibel, Hans: Metaphysik und Geschichte. Eine Untersuchung zur Entwicklung der Geschichtsphilosophie, Band 1, Leipzig, Wien: Hugo Heller & Cie., 1913.
133. Einhorn, David: Der Kampf um einen Gegenstand der Philosophie. Eine Neologische Untersuchung, Wien, Leipzig: Wilhelm Braumüller, 1916.
(本文中に傍線が引かれており、注意書あり)
134. Elkuss, Siegbert: Zur Beurteilung der Romantik und zur Kritik ihrer Erforschung, hg. Von Franz Schulz, München, Berlin: R. Oldenbourg, 1918 (= Historische Bibliothek 39).
(本文中に傍線が引かれており、注意書あり)
135. Elliott, Edward Grahame: Die Staatslehre John C. Calhouns. Inaugural—Dissertation zur Erlangung der Doktorwürde der hohen philosophischen Fakultät der Ruprecht-Karls-Universität zu Heidelberg, Leipzig: Duncker & Humblot, 1902.
136. Eisenhans, Theodor: Das Kant-Friesische Problem. Habilitationsschrift einer hohen philosophischen Fakultät der Universität Heidelberg zu Erlangung der venia legendi, Heidelberg zu Erlangung der venia legendi, Heidelberg: Universitäts-Buchdruckerei J. Hörning, 1902.
137. Eisenhans, Theodor: Die anthropologische Vernunftkritik von Jakob Friedrich Fries. II^{me} Congrès international de Philosophie Genève, 4-8 Septembre 1904. Extraits des Comptes rendus du Congrès.
(本文中に傍線が引かれており、注意書あり)

138. Eisenhans, Theodor: Die Aufgabe einer Psychologie der Deutung als Vorarbeit für die Geisteswissenschaften. Vortrag gehalten auf dem Kongress für Experimentelle Psychologie zu Gießen am 21. April 1904, Gießen: J. Ricker'sche Verlagsbuchhandlung (Alfred Töpelmann), 1904.
139. Eisenhans, Theodor: Fries und Kant. Ein Beitrag zur Geschichte und zur systematischen Grundlegung der Erkenntnistheorie. I. Historischer Teil: Jakob Friedrich Fries als Erkenntnistritiker und sein Verhältnis zu Kant, II. Kritisch-Systematischer Teil: Grundlegung der Erkenntnistheorie als Ergebnis einer Auseinandersetzung mit Kant vom Standpunkte der Friesischen Problemstellung, Giessen: Alfred Töpelmann (vormals J. Ricker'sche Verlagsbuchhandlung), 1906.
(第一巻に著者による献記の辞あり)
140. Eisenhans, Theodor: Theorie der Phantasie. Sonderabdruck aus: Archiv für die gesamte Psychologie 22 (1911), Leipzig: Wilhelm Engelmann, 1911.
141. Erhardt, Franz: Tatsachen, Gesetz, Ursachen. Rede zur Feier des 28. Februar 1912, Rostock: Stiller'sche Hof- und Universitäts-Buch-handlung (H. Taubmann), 1912.
142. Eucken, Rudolf: Beiträge zur Einführung in die Geschichte der Philosophie, der „Beiträge zur Geschichte der Neueren Philosophie“ 2. ungearbeitete und erweiterte Auflage, Leipzig: Dürr'sche Buchhandlung, 1906.
(まれに本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みがあり、注意書きあり)
143. Fichte, Immanuel Hermann: Vermischte Schriften zur Philosophie, Theologie und Ethik, Band 1, Leipzig: F. A. Brockhaus, 1869.
(まれに本文中に傍線が引かれている)

144. Figgis, John Neville: Studies of political thought. From Gerson to Grotius 1414-1625, Cambridge: University Press, 1907.
145. Feiner, Fritz: Entstehung und Wandlung moderner Staatstheorien in der Schweiz, Zürich: Art. Institut Orell Füssli, 1916.
(著者による献呈の辞が記されており、本文中に傍線が引かれており、注意書きあり)
146. Friedmann, Constanze: Psychologische Momente in der Ableitung des A priori bei Kant. Versuch einer Versöhnung von Transzendentalismus und kritischem Psychologismus, Wien: J. Eisenstein & Co., 1921 (=Kantstudien 21).
(献呈の辞)
147. Friedrich, Heinrich: Die literarischen Theorien der Goncourt. Inauguraldissertation zur Erlangung der philosophischen Doktorwürde. Einer hohen philosophischen Fakultät der Universität Heidelberg vorgelegt, Lahm: Moritz Schauenburg, 1910.
148. Fueter, Eduard: Geschichte der Neueren Historiographie, München, Berlin: R. Oldenbourg, 1911 (=Handbuch der Mittelalterlichen und Neueren Geschichte 1).
(本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、まれに頁余白に書き込みあり)
149. Gaß, W [ihelm]: Geschichte der Protestantischen Dogmatik in ihrem Zusammenhange mit der Theologie überhaupt, Band 1: Die Grundlegung und der Dogmatismus, Berlin: Georg Reimer, 1854, Band 2: Der Synkretismus. Die Schulbildung der reform. Theologie. Der Pietismus, 1857, Band 3: Die Zeit des Übergangs, 1862, Band 4: Die Aufklärung und der Rationalismus. Die Dogmatik der philosophischen Schulen. Schleiermacher und seine Zeit, 1867.
(本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みあり、またそれぞれの最後の頁に手書きの要約)

かゝる)

150. Gitz, Wilh [elm]: Lehrbuch der Wirtschaftlichen Geographie für Handels-, Real- und Gewerbeschulen und zum Selbstunterricht, Stuttgart: Ferdinand Enke, 1891.
151. Goldstein, Julius: Die empiristische Geschichtsauffassung David Humes mit Berücksichtigung moderner methodologischer und erkenntnistheoretischer Probleme. Eine philosophische Studie. Leipzig: Dürr'sche Buchhandlung, 1903.
(本文中に傍線が引かれており、まれに頁余白に書き込みあり)
152. Gottl, Friedrich: Ueber die „Grundbegriffe“ in der Nationalökonomie. Habilitationsschrift einer hohen philosophischen Facultät zur Erlangung der venia legendi an der Grossherzoglichen Ruprecht-Carls-Universität zu Heidelberg, Jena: Gustav Fischer, 1900.
153. Güttler, C.: Eduard Lord Herbert von Cherbury. Ein kritischer Beitrag zur Geschichte des Psychologismus und der Religionsphilosophie. Mit einem Bildnisse, München: C. H. Beck'sche Verlagsbuchhandlung Oskar Beck, 1897.
(本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みあり)
154. Gurwitsch, Georg: Otto v. Guericke als Rechtsphilosoph, erweiterter Separat-Abdruck aus: Logos, Internationale Zeitschrift für Philosophie der Kultur 11 (1922), Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1922.
(著者による献記の辞あり)
155. Haecker, Theodor: Sören Kierkegaard und die Philosophie der Innerlichkeit, München: J. F. Schreiber, 1913.
(本文中に傍線が引かれており)
156. Harnack, Adolf: Das Wesen des Christentums. Sechzehn Vorlesungen vor Studierenden im Wintersemester

- 1899/1900 an der Universität Berlin, Leipzig: J. C. Hinrichs'sche Buchhandlung, 1990.
 (本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みあり)
157. Harnack, Adolf: Dogmengeschichte, 5., verbesserte Auflage, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1914
 (=Grundriß der Theologischen Wissenschaften 4.3).
158. Harnack, Otto: Die klassische Ästhetik der Deutschen. Würdigung der kunsttheoretischen Arbeiten Schiller's, Goethe's und ihrer Freunde. Mit dem Facsimile eines ungedruckten Gedichts von Schiller, Leipzig: Hinrichs'sche Buchhandlung, 1892.
159. Hellemann, Willy: Die Neugeburt der menschlichen Gemeinschaft. Ein Wort zur Frage der Erziehung, Berlin: Furche-Verlag, 1922 (=Der Neue Bund 1).
160. Hepach, Willy: Unbewußtes oder Wechselwirkung. Eine Untersuchung über die Denkmöglichkeit der psychologischen Deutungsprinzipien. Sonderabdruck aus: Zeitschrift für angewandte Psychologie und Charakterkunde 48 (1935), Leipzig: Johann Ambrosius Barth, 1935.
161. Helmholz, H. Von: Goethe's Vorahnungen kommender naturwissenschaftlicher Ideen. Rede, gehalten in der Generakerversammlung der Goethe-Gesellschaft zu Weimar den 11. Juni 1892, Berlin: Gebrüder Paetel, 1892.
 (おれの本文中に傍線が引かれてる)
162. Hekner, Heinrich: Die Geschichte der Nationalökonomie. Sonderdruck aus der Festschrift für Lujo Brentano zum siebenzigsten Geburtstag, München, Leipzig: Duncker & Humblot, 1916.
163. Herrmann, W [Ilhelm]: Ethik, 4. Auflage, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1909 (=Grundriß der Theologischen Wissenschaften 5.2).

164. Himstedt, F.: Neuere Anschauungen über Zeit, Raum und Materie. Vortrag gehalten in der ersten Fest Sitzung der Freiburger Wissenschaftlichen Gesellschaft am 26. Oktober 1912, Freiburg i. B., Leipzig: Speyer & Kaerner, Universitätsbuchhandlung, 1913.
165. Höfler, Alois: Grundlehren der Psychologie. Lehrtext und Übungen für den Unterricht an Gymnasien. Mit 41 Holzschnitten im Text. Mit hohem k. k. Ministerial-Erlass vom 17. Juni 1898, Zahl 15535, allgemein zulässig erklärt. Prag, Wien, Leipzig: F. Tempsky und G. Freytag, 1898.
(まれに本文中に傍線が引かれてゐる)
166. Jaspers, Karl: Max Weber. Rede bei der von der Heidelberger Studentenschaft am 17. Juni 1920 veranstalteten Trauerfeier, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1921.
(本文中に傍線が引かれており、注意書あり)
167. Jellinek, Georg: System der subjektiven öffentlichen Rechte, 2. durchgesehene und vermehrte Auflage, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1905.
(本文中に傍線が引かれており、注意書あり、頁余白に書き込みあり。「書き込みの中に『書評完成』とある。)
168. Jellinek, Georg: Die sozialethische Bedeutung von Recht und Strafe, 2., durchgesehene Auflage, Berlin: O. Häring, 1908.
(本文中に傍線が引かれており、多くの注意書あり)
169. Jellinek, Georg: Regierung und Parlament in Deutschland. Geschichtliche Entwicklung ihres Verhältnisses. Vortrag gehalten in der Gehe-Stiftung zu Dresden am 13. März 1909, Leipzig: B. G. Teubner, 1909.
170. Jellinek, Georg: Ausgewählte Schriften und Reden, Band 1, mit einem Geleitwort von Wilhelm Windelband nebst

zwei Bildnissen des Verfassers und einem Namen- und Sachregister: I. Philosophie und Rechtsphilosophie- II. Zur schönen Literatur [-] III. Auf Lebende und Tote [-] IV. Universität - V. Das Prorektoratsjahr, Band 2, mit einem Namen- und Sachregister: VI. Rechtsgeschichte und Geschichte der politischen Ideen [-] VII. Staatslehre, Politik und Staatsrecht [-] VIII. Völkerrecht, Berlin: O. Häring, 1911.

(第一巻には、本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みがあり、第二巻にも、本文中に傍線が引かれており、注意書きがあり、まれに頁余白に書き込みがある)

171. Jodl, Friedrich: Vom Lebenswege. Gesammelte Vorträge und Aufsätze in zwei Bänden. Hg. von Wilhelm Börner. Band 1. Mit einem Bildnis, Stuttgart, Berlin, J. G. Cotta'sche Buchhandlung Nachfolger, 1916.

(まれに本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みがある〔が、それがトレルチによるものであるかどうかは疑問〕)

172. Kant, Immanuel: Worin besteht der Fortschritt zum Besseren im Menschengeschlecht? Ein bisher ungedruckter und unbekannter Aufsatz Kants [-] hg. und besprochen von Georg Kullmann, Wiesbaden: Heinrich Staadt, 1914.

(本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みがある〔が、それがトレルチによるものであるかどうかは疑問〕)

173. Kaufmann, Erich: Studien zur Staatslehre des monarchischen Prinzipes. Einleitung; die historischen und philosophischen Grundlagen. Inaugural-Dissertation zur Erlangung der juristischen Doktorwürde der Hohen Juristischen Fakultät der Königl. vereinigten Friedrich-Universität Halle-Wittenberg, Leipzig: Oscar Brandstetter, 1906.

(著者による献呈の辞あり、本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みがあり)

174. Kessler, Kurt: Die neukantische Religionsphilosophie der Gegenwart kritisch gewürdigt. Ein Beitrag zur Frage des religiösen Apriori. Inaugural-Dissertation zur Erlangung des Lizentiatenwürde der Hohen theologischen Fakultät der Badischen Ruprecht-Karls-Universität in Heidelberg, Langensalza: Dietmar & Söhne, 1920.
175. Kipp, Theodor: Humanismus und Rechtswissenschaft. Vortrag gehalten in der Versammlung der Vereinigung der Freunde des humanistischen Gymnasiums in Berlin und der Provinz Brandenburg am 5. Dezember 1911, Berlin: Weidmannsche Buchhandlung, 1912.
176. Kjellen, Rudolf: Der Staat als Lebensform, Leipzig: S. Hirzel, 1917.
(本文中に傍線が引かれておいて、頁余白に書かれた注がある)
177. Krellenberg, Paul: Über die Herausschärfung der Wahrnehmungs- und Vorstellungswelt aus der originären eidetischen Einheit. Sonderabdruck aus: Zeitschrift für Psychologie 88 (1921), Leipzig: Johann Ambrosius Barth, 1921.
178. Kries, J [Johannes] v [on]: Über die materiellen Grundlagen der Bewußtseins-Erscheinungen, Tübingen, Leipzig: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1901.
179. Kronenberg, M.: Geschichte des Deutschen Idealismus, Band 1: Die idealistische Ideen-Entwicklung von ihren Anfängen bis Kant, München: C. H. Beck'sche Verlagsbuchhandlung Oskar Beck, 1909, Band 2: Die Blütezeit des deutschen Idealismus von Kant bis Hegel, 1912.
180. Kuyper, A [Abraham]: Antirevolutionaire staatkunde. Met nadere toelichting op ons program door, eerste deel: De beginselen, Kampen: J. H. Kok, 1916, tweede deel: De toepassing, 1917.
181. Kracala, J. (Hg.): Neue Beiträge zum Briefwechsel zwischen D. E. Jablonsky und G. W. Leibniz, Jurjew: C. Mattiesen,

1899.

(本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みがあり、注意書きあり)

182. Lamprecht, K [arl]: Zwei Streitschriften den Herren H. Oncken, H. Delbrück, M. Lenz zugeeignet, Berlin: R. Gaertners Verlagsbuchhandlung Hermann Heyfelder, 1897.
183. Lasker, Emanuel: Die Philosophie des Unvollendbar, Leipzig: Veit & Comp., 1919. Lehmann, Edv [ard]: Der Buddhismus als indische Sekte als Weltreligion, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1911.
184. Lehmann, Edv [ard]: Der Buddhismus als indische Sekte als Weltreligion, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1911.
185. Leopold, Ludwig: Prestige. Ein gesellschaftspsychologischer Versuch. Nach den ungarischen und englischen Ausgaben vom Verfasser neu bearbeitet, Berlin: Puttkammer & Mühlbrecht, 1916.
(著者による註記の辞を附載せしむるが、著者の著のカーヘンが著る)
186. Lewin, Kurt: Die Verwandtschaftsbegriffe in Biologie und Physik und die Darstellung vollständiger Stammbäume. Mit 11 Abbildungen im Text, Berlin: Gebrüder Borntraeger, 1920 (=Abhandlungen zur theoretischen Biologie 5).
187. Lichtenstein, Erich: Gottscheds Ausgabe von Bayles Dictionnaire. Ein Beitrag zur Geschichte der Aufklärung, Heidelberg: Carl Winters Universitätsbuchhandlung, 1915.
188. Liebert, [Arthur]: Die Philosophie in der Schule, Berlin, Leipzig: Pan-Verlag: 1927 (=Pan-Bücherei, Gruppe Philosophie 1).
189. Liebert, [Arthur]: Spinoza-Brevier. Zusammengestellt und mit einem Nachwort versehen, Berlin: Reichl & Co., 1912.
190. Lilienthal, K [arl] v [on]: Grundriss zur Vorlesung über deutsches Strafrecht, 3. Auflage, Marburg: N. G. Elwert'sche

Verlagsbuchhandlung, 1908.

191. Lipsius, Friedrich Reinhard: Die Vorfagen der systematischen Theologie. Mit besonderer Rücksicht auf die Philosophie Wilhelm Wundts kritisch untersucht, Freiburg i. Br., Leipzig, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1899.
(本文中に傍線が引かれており、注意書もあり、頁余白に書込みがあり)
192. Lit, Theodor: Geschichte und Leben. Von den Bildungsaufgaben geschichtlichen und sprachlichen Unterrichts, Leipzig, Berlin: B. G. Teubner, 1918.
(著者による献呈の辞があり、本文中に傍線が引かれており、注意書もあり、頁余白に書込みがあり)
193. Loofts, Friedrich: Symbolik oder christliche Konfessionskunde, Band 1, Tübingen, Leipzig: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1902 (=Grundriss der Theologischen Wissenschaften 4.4).
(本文中に傍線が引かれており、注意書もあり、頁余白に書込みがあり)
194. Lukás, Georg von: Die Seele und die Formen. Essays, Berlin: Egon Fleischel & Co., 1911.
(著者による献呈の辞もあり)
195. Mahnke, Dietrich: Die Neubelebung der Leibnizischen Weltanschauung. Separat-Abdruck aus: Logos, Internationale Zeitschrift für Philosophie der Kultur 9 (1920), Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1920.
(まれに本文中に傍線が引かれており)
196. Marcks, Erich: Alfred Lichtwark und sein Lebenswerk. Rede gehalten bei der Gedenkfeier der Hamburger Kunststalle am 13. März 1914, Leipzig: Quelle & Meyer, 1914.
197. Marvin, Francis S. (Hg.): Progress and History. Essays arranged and edited by F. S. Marvin, second impression,

- London, u.a.: Humphrey Milford Oxford University Press, 1917.
 (F・フオン・ヒューゲルからの寄贈の言葉が記されている)
198. Mayer, Eduard Wilhelm: Machiavellis Geschichtsauffassung und sein Begriff virtu. Studien zu seiner Historik, München, Berlin: R. Oldenbourg, 1912 (=Historische Bibliothek 31).
 (本文中に傍線が引かれており、六二頁の余白に書き込みがある)
 (本文中に傍線が引かれており、六二頁の余白に書き込みがある)
199. Menke-Glückert, E [mil]: Goethe als Geschichtsphilosoph und die geschichtsphilosophische Bewegung seiner Zeit. Mit einer Einführung zu den Beiträgen von Karl Lamprecht, Leipzig: R. Voigtländer, 1907 (=Beiträge zur Kultur- und Universalgeschichte 1).
200. Menzer, Paul: Weltanschauungsfragen, Stuttgart: Ferdinand Enke, 1918.
 (「次のようなスタンプが押されている「親しい対話のため」」)
201. Metzger, Arnold: Untersuchung zur Frage der Differenz der Phänomenologie und des Kantianismus. Versuch einer erkenntnistheoretischen Studie am Gegenstandsbegriff. Inaugural-Dissertation der philosophischen Fakultät der Universität Jena zur Erlangung der Doktorwürde, Jena: Ant Kämpfe, 1915.
 (著者による献呈の辞が記されており、本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みがあり、最後の頁にメモ書きがある)
202. Meurer, Waldemar: Ist Wissenschaft überhaupt möglich? Leipzig: Felix Meiner, 1920.
203. Meyer, Victor: Probleme der Atomistik. Vortrag, gehalten in der 2. allgemeinen Sitzung der 67. Versammlung Deutscher Naturforscher und Ärzte zu Lübeck am 18. September 1895, Heidelberg, 1966.
204. Münch, Fritz: Kultur und Recht. Nebst einem Anhang: Rechtsreformbewegungen und Kulturphilosophie. Sonder-

- Abdruck aus: Zeitschrift für Rechtsphilosophie 1 (1918), Leipzig: F. Meiner, 1918.
 (著者による献呈の辞が記されており、本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みがある)
205. Nadler, Josef: Literaturgeschichte der deutschen Stämme und Landschaften, Band 1: Die altdeutschen Stämme 800-1740, 2. Auflage, Regensburg: Josef Habel, 1923.
206. Natorp, Paul: Soziale Erziehung. Sonderabdruck aus: Annalen für soziale Politik und Gesetzgebung 6 (1918), Berlin: Julius Springer, 1918.
207. Natorp, Paul: Hermann Cohen als Mensch, Lehrer und Forscher. Gedächtnisrede, gehalten in der Aula der Universität Marburg, 4. Juli 1918. Mit einem Bildnis und Lebensabriß Hermann Cohens, Marburg: N. G. Elwert'sche Verlagsbuchhandlung (G. Braun), 1918 (= Marburger Akademische Reden 39).
 (本文中に傍線が引かれており、注意書もあり、頁余白に書き込みがある)
208. Neeff, Leonard: Die kritische Ethik bei Kant, Schiller und Fries. Eine Revision ihrer Prinzipien, Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 1914.
 (本文中に傍線が引かれており、注意書もあり)
209. Nelson, Leonard: Die kritische Ethik bei Kant, Schiller und Fries. Eine Revision ihrer Prinzipien, Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 1914.
 (本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みがある)
210. Nelson, Leonard: Ethische Methodenlehre, Leipzig: Veit & Comp., 1915.
 (本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みがある (がトレルチによるものであるかどうかは疑問))
211. Nelson, Leonard: Erziehung zum Führer. Vortrag gehalten im Zentralinstitut für Erziehung und Unterricht in Berlin

am 14. April 1920, Leipzig: Der Neue Geist [.] Dr. Peter Reinhold, 1920.

(著者による献呈の辞が記されてゐる)

212. Neumann, Carl: Jakob Burckhardt. Briefwechsel mit Heinrich von Geymüller. Mit einer Einleitung über Heinrich von Geymüller und mit Erläuterungen, München: Georg Müller und Eugen Rentsch, 1914.

(神学アカデミー協会からの奇贈の辞が記されてゐる)

213. Ölzel-Newin, A.: Theologie als empirische Disziplin, Wien, Leipzig: Verlagsbuchhandlung Carl Fromme. G.m.b.H., 1918.

214. Oesterreich, Traugott Konstantin: Internationale Strömungen in der Philosophie der Gegenwart. Sonderabdruck aus: Internationale Monatsschrift für Wissenschaft, Kunst und Technik 13 (1912), Leipzig, Berlin: B. G. Teubner, 1912.

(本文中に傍線が引かれてゐる)

215. Olschki, Leonard: Der ideale Mittelpunkt Frankreichs im Mittelalter in Wirklichkeit und Dichtung, Heidelberg: Carl Winters Universitätsbuchhandlung, 1913.

216. Paulsen, [Friedrich]: Kants Verhältnis zur Metaphysik. Sonderabdruck aus: Kant-Studien, Berlin: A. Asher & Co., 1900.

(まれに本文中に傍線が引かれてゐる)

217. Plenge, Johann: Das System der Verkehrswirtschaft. Probavorlesung am 25. April 1903 zum Zweck der Habilitation an der Universität Leipzig. Tübingen: H. Laupp'sche Buchhandlung, 1903.

(本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みがある)

218. Plessner, Helmuth: *Krisis der transszendentalen Wahrheit im Anfang*, Heidelberg: Carl Winters Universitätsbuchhandlung, 1918.
 (著者によめる単語の辞が記られていゝる)
219. Proesler, Hans: *Das Problem einer Entwicklungsgeschichte des historischen Sinnes*, Berlin: Emil Ebering, 1920 (= *Historische Studien* 142).
 (著者によめる単語の辞があり、本文中に傍線が引かれており、注意書きあり)
220. Rathgen, Karl: *Die Verfassung und Verwaltung Japans*. Sonderabdruck aus: *Die Kultur der Gegenwart* 2.2.1, Leipzig, Berlin: B. G. Teubner, 1911.
221. Reinhardt, Karl: *Erläuterungen zu der Ordnung der Prüfung und zu der Ordnung der praktischen Ausbildung für das Lehramt an höheren Schulen in Preußen*, Berlin: Weidmannsche Buchhandlung, 1917.
222. Reitzenstein, R [Richard]: *Die Hellenistischen Mysterienreligionen*. Ihre Grundgedanken und Wirkungen. Vortrag gehalten in dem wissenschaftlichen Predigerverein für Elsass-Lothringen den 11. November 1909, Leipzig, Berlin: B. G. Teubner, 1910.
 (本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みがあり)
223. Richter, Gustav: *R. Dietsch's Grundriss der Allgemeinen Geschichte für die oberen Klassen von Gymnasien und Realschulen*, Teil 1, neu bearbeitet, 8. Auflage, Leipzig: B. G. Teubner, 1876, Teil 2, 2. Auflage, 1887, Teil 3, neu bearbeitet, 6. Auflage, 1874.
 (本文中に非常に多くの傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みがあり、第一巻の最後の三頁と第二巻の最後の四頁にメモ書きがある)

224. Rott, Hans: Otto Herinrich und die Kunst. Mit einer Heliographie, 22 Bildern im Text und vier Tafeln. Mitteilungen zur Geschichte des Heidelberger Schlosses 5, Heidelberg, 1905.
(著者による註文の辞めらる)
225. Rühl, Alfred: Die Wirtschaftspsychologie des Spainers. Sonderabdruck aus: Zeitschrift der Gesellschaft für Erdkunde 3,4 (1922), Berlin: F. S. Mittler & Sohn, 1922.
226. Rumpf: [Rez.] Alfred Bozi: Die Weltanschauung der Jurisprudenz, Helwingsche Verlagsbuchhandlung. 1907, in: Kritische Vierteljahresschrift (3. Folge, Band 8, Heft 4).
227. Rüst, Hans: Gustav Class' Philosophie in systematischer Darstellung. Nebst einem Versuche ihrer Weiterbildung, Leipzig: Quelle & Meyer, 1909 (=Abhandlungen zur Philosophie und ihrer Geschichte 10).
228. Simmel, Georg: Kant und Goethe. Zur Geschichte der modernen Weltanschauung, Leipzig: Kurt Wolf, 1916.
(本文中に傍線が引かれており、注意書めらる)
229. Simmel, G [eorg]: Über sociale Differenzierung. Sociologische und psychologische Untersuchungen, Leipzig: Duncker & Humblot, 1890 (=Staats- und socialwissenschaftliche Forschungen 10, 1. Heft, Berlin: O. Häring, 1911).
(本文中に傍線が引かれており、頁余白に書めらる)
230. Schelwien, Robert: Nietzsche und seine Weltanschauung. Eine kritische Studie, Leipzig: Alfred Janssen, 1897.
(もれに本文中に傍線が引かれてる)
231. Schmidt, Günther: Herder und August Wilhelm Schlegel. Inaugural-Dissertation zur Erlangung der Doktorwürde genehmigt von der Philosophischen Fakultät der Friedrich- Wilhelms-Universität zu Berlin, Berlin: Blanke, 1917.
232. Schmidt, Leopold: Die Ethik der alten Griechen, Band 1, Berlin: Wilhelm Hertz (Bessersche Buchhandlung), 1882.

- (まれに本文中に傍線が引かれている)
233. Schmidt, Richard: Die „Rückkehr zu Hegel“ und die strafrechtliche Verbrechenlehre. Sonderabdruck aus: Der Gerichtssaal 81, Stuttgart: Ferdinand Enke, 1913.
(本文中に多くの傍線が引かれており、頁余白に書き込みがある〔が、それがトレルチによるものであるかどうかは疑問〕)
234. Schmitt, Elisabeth: Die unendlichen Modi bei Spinoza. Inaugural-dissertation zur Erlang der Doktorwürde eingereicht bei einer Hohen philosophischen Fakultät der Grossherzoglich Badischen Ruprecht-Karls-Universität zu Heidelberg, Leipzig: Johann Ambrosius Barth, 1910.
235. Schmitt-Doroti, Carl: Die Diktatur. Von den Anfängen des modernen Souveränitätsgedankens bis zum proletarischen Klassenkampf, München, Leipzig: Duncker & Humboldt, 1921.
(本文中に傍線が引かれている〔が、それがトレルチにちなむものであるかどうかは疑問〕)
236. Schön, Friedrich: Geschichte der Deutschen Mundartdichtung, Teil 1: Vom Ende des 16. Jahrhunderts bis zu den niederdeutschen Klassikern, Freiburg i. B.: Friedrich Ernst Fehsenfeld, 1920, Teil 2: Die nieder- und oberdeutsche Klassiker bis zur Gegenwart, 1921.
237. Schbert, Emmerich: Kultur und Volkswirtschaft, Heidelberg: Carl Winters Universitätsbuchhandlung, 1918.
(まれに本文中に傍線が引かれている)
238. Schulze-Gaevernitz, Gerhard v.: „Wirtschaftswissenschaft?“, München, Leipzig: Duncker & Humblot, 1915.
(本文中に傍線が引かれている)
239. Schulze-Sölde, W [altherr]: Der Einzelne und sein Staat, Leipzig, Berlin: B. G. Teubner, 1922.

(頁余白に書き込みがあり)

240. Schwarz, Emil: J.-M. Guyaus Moral. Inaugural-Dissertation zur Erlangung der akademischen Doktorwürde der Hohen philosophischen Fakultät der Ruprecht-Karls-Universität zu Heidelberg, Straßburg: M. DuMont Schauberg, 1909.
241. Schweizer, Albert: Geschichte der Leben-Jesu-Forschung. 2., neu bearbeitete und vermehrte Auflage des Werkes „Von Reimarus zu Wrede“, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1913.
(著者による献呈の辞あり、本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みがあり)
242. Smith, Norman Kemp: A commentary to Kant's 'Critique of pure reason,' London: Macmillan and Co., 1918.
(著者による献呈の辞あり)
243. Sommerlath, Ernst: Kants Lehre vom intelligiblen Charakter. Ein Beitrag zu seiner Freiheitslehre, Leipzig: A. Deichert'sche Verlagsbuchhandlung Werner Scholl, 1917.
244. Spranger, Eduard: Wilhelm Dilthey. Eine Gedächtnisrede gehalten in der Societas Joachinnica zu Berlin, Berlin: Neues Leben G.m.b.H. Wilhelm Borngräber, 1912.
(寄贈された本であることが記されており、本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みがある)
245. Ssalagoff, Leo: Vom Begriff des Geltens in der modernen Logik. Inaugural-Dissertation zur Erlangung der Doktorwürde der hohen philosophischen Fakultät der Ruprecht Karls-Universität zu Heidelberg vorgelegt. Leipzig: Johann Ambrosius Barth, 1910.
246. Tawney, R [Richard] H.: The acquisitive society, London: G. Bell and Sons Ltd., 1921. Tillmann, Bruno: Leibniz'

- Verhältnis zur Renaissance im allgemeinen und zu Nizolius im besonderen. Mit einigen Zusätzen von Dr. Adolf Dyroff. Bonn: Peter Hanstein, 1912 (=Renaissance und Philosophie, Heft 5).
247. Titius, A[rthur]: Kants transzendente Aesthetik im Lichte der heutigen Wissenschaft. Festgabe für D. Dr. Julius Kaffan, ord. Prof. Der Theologie in Berlin, wirkl. Geh. Oberkonsist.-Rat. zu seinem 70. Geburtstag, 30. IX. 1918, dargebr. v. Schülern und Kollegen. Mit 1 Bilde Julius Kaffans, Tübingen: J. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1920.
248. Ulrich, Hermann: Ueber Princip und Methode der Hegelschen Philosophie. Ein Beitrag derselben, Halle: Johann Friedrich Lippert, 1841.
(まれに本文中に傍線が引かれている)
249. Vierkandt, Alfr [ed] u. a.: Allgemeine Verfassungs- und Verwaltungsgeschichte. Sonderabdruck aus Teil 2 Abteilung 2.1 des Gesamtwerkes, Leipzig, Berlin: B. G. Teubner, 1911 (=Die Kultur der Gegenwart 2:2.1).
250. Vossler, Karl: Das System der Philosophie des Geistes, in: Deutsche Literaturzeitung 31 (1910).
(本文中に傍線が引かれており、頁余白に書き込みがある)
251. Waldberg, Max Freiherr von: der empfindsame Roman in Frankreich, Teil 1: Die Anfänge bis zum Beginne des XVIII. Jahrhunderts, Straßburg, Berlin: Karl J. Trübner, 1906.
(本文中に傍線が引かれており、注意書きあり)
252. Waldberg, Max Freiherr von: Studien und Quellen zur Geschichte des Romans, Teil 1: Zur Entwicklungsgeschichte der „schönen Seele“ bei den spanischen Mystikern, Berlin: Emil Felber, 1910 (=Literarhistorische Forschungen XII).
- (本文中に傍線が引かれており、まれに頁余白に書き込みがあり)

253. Walzel, Oskar: Deutsche Romantik, Teil 1: Welt- und Kunstanschauung, Teil 2: Die Dichtung. 4. Auflage, Leipzig, Berlin: B. G. Teubner, 1918 (=Aus Natur und Geisteswelt 232 und 233).
- (第一巻の最後の頁にメモ書きがあり、本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みがある。また第二巻の本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みがある)
254. Weber, Max: Kritische Studien auf dem Gebiet der kulturwissenschaftlichen Logik, in: Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik 22 (1906), S. 143-207.
- (最後の頁にメモ書きがあり、本文中に傍線が引かれており、注意書きあり、頁余白に書き込みがある)
255. Wende, Oskar: Leitfaden der Staatsbürgerkunde für technische Fachschulen und andere Lehranstalten, 2., verbesserte Auflage, Berlin: Reuther & Reichard, 1919.
256. Witkop, Philipp: Die Anfänge der neueren deutschen Lyrik. Habilitationsschrift der hohen philosophischen Fakultät der Ruprecht-Karls-Universität Heidelberg zur Erlangung der venia legendi, Leipzig: B. G. Teubner, 1908.
257. Wlassak, Rudolf: Ernst Mach. Gedächtnisrede gehalten in der soziologischen Gesellschaft in Wien am 26. Juni 1916, Leipzig: Johann Ambrosius Barth, 1917.
- (次のようなスタンプが押されている。「親しい対話のために出版社からお送りいたします」また手書きで「心より挨拶申し上げます」と付け加えられている。本文中に傍線が引かれている)
258. Wolff, Max J.: Shakespeare. Der Dichter und sein Werk. In zwei Bänden, Band 1 mit einer Nachbildung des Droeshout-Porträts in Gravüre, Band 2 mit einer Nachbildung des Chandos-Porträts in Gravüre, München: Beck'sche Verlagsbuchhandlung (Oskar Beck), 1908.
259. Wundt, Wilhelm: Ethik. Eine Untersuchung der Tatsachen und Gesetze des sittlichen Lebens. 4., umgearbeitete

Auflage. Drei Bände. Band 1: Die Tatsachen des sittlichen Lebens, Band 2: Die Entwicklung der sittlichen Weltanschauungen, Band 3: Die Prinzipien der Sittlichkeit und die sittlichen Lebensgebiete, Stuttgart: Ferdinand Enke, 1912.

(第一巻にまれに本文中に傍線が引かれている)

260. Wolzendorf, Kurt: Staatsrecht und Naturrecht in der Lehre vom Widerstandsrecht des Volkes gegen rechtswidrige Ausübung der Staatsgewalt, Breslau, M. u. H. Marcus, 1916 (= Untersuchungen zur deutschen Staats- und Rechtsgeschichte 126).

(本文中に傍線が引かれている)

261. Wygodzinski, W [Jili]: Wandlungen der deutschen Volkswirtschaft im neunzehnten Jahrhundert, Köln: M. Du Mont-Schauberg'sche Buchhandlung, 1912.

(著者による献呈の辞が記されている。本文中に傍線が引かれており、注意書きがある)

262. Ziemssen, Otto: Makrokosmos. Grundideen zur Schöpfungstheorie und zu einer harmonischen Weltanschauung. Versuch einer Systematik des Kopernikanismus, Gotha: E. F. Thienemann, 1893.
(本文中に傍線が引かれており、まれに頁余白に書き込みがあり)

- (1) Hans-Georg Drescher, Ernst Troeltsch. Leben und Werk, Göttingen 1991, 413-453
- (2) H. Renz und F. W. Graf (Hrsg.), Troeltsch-Studien. Untersuchungen zur Biographie und Werkgeschichte, Gütersloh 1982
- (3) トレルチの死、及びその後の出来事については Ernst Troeltsch in Nachrichten (=Troeltsch-Studien Bd.12) Hrsg. von F. W. Graf unter Mitarbeit von Christian Nees, Gütersloh 2002 の解説に詳細に記されている。
- (4) Drescher, aao. 413ff. とりわけスルリン時代のトレルチの研究については述べている。482頁以下を参照のこと。
- (5) トレルチとイエリネックについては Klaus Kempfer, Die Jellineks 1820-1955. Eine familienbiographische Studie zum deutschjüdischen Bildungsbürgertum, 1998 Düsseldorf を参照のこと。またトレルチは本蔵書目録 170 の詳細な書評を参照のこと。Ausgewählte Schriften und Reden. Von Georg Jellinek. Band I, XXXII, 454, Bd.II, X, 584 S. Berlin, 1911, in: Zeitschrift für das Privat- und Öffentliche Recht der Gegenwart, Hrsg. von C. S. Grünhut. 39 (1912), 273-278
- (6) トレルチとヴェーバーの往復書簡がほとんど残されていないという不思議な状況を考えるならば、その蔵書目録とその書き込みなどは両者の思想的な関係を明らかにするために意味深い資料となるはずである。Vgl. F. W. Graf, Fachmenschenfreundschaft. Bemerkungen zu Maz Weber und Ernst Troeltsch, in: W.J. Mommsen und W. J. Schwenker (Hg.), Max Weber und seine Zeitgenossen, Göttingen 1988, 313-336 を参照のこと。
- (7) トレルチはハルナックの『キリスト教の本質』についての大きな批判論文を書いているがこの蔵書の余白にはその内容を一致するさまざまな書き込みがある。
- (8) A・シュヴァイツァーがトレルチに『イエス伝研究史』を贈っていることは興味深いし、またそれをトレルチが詳細に読んでいたことにも注目すべきであろう。両者はこの時代の黙示文学的終末論の再発見者でもある。
- (9) ジンメルとトレルチとの関係は詳細に研究されているが、本蔵書の書き込みからそのことを理解することができよう。Vgl.

Friedemann Voigt, Die Tragödie des Reiches Gottes? Ernst Troeltsch als Leser Georg Simmels (= Troeltsch-Studien Bd.10), 1998 Gutersloh

(10) 神学的アヴマンギヤルドとの関係で言うならば、今回訳者による再調査によっても見出すことができなかったが、トレルチはバルトの『ロマ書』の諸般を出版社あるいは社会主義者たちの図書共同購入委員会から寄贈されているはずである。もしそれが見つかれば、トレルチとバルトの間関係は、残されたたった一度限りの往復書簡以外の、有力な資料となるはずであるが、おそらく既にそれは失われてしまっているのであろう。この点については古くはW. Groll, Ernst Troeltsch und Karl Barth. Kontinuität im Widerspruch, München 1976, 最近ではStefan Holmann, Karl Barth als Theologe der Neuzeit. Studien zur kritischen Deutung seiner Theologie, Göttingen 2007を参照せよ。

(11) Ernst Troeltsch Bibliographie, herausgegeben, eingeleitet und kommentiert von Friedrich Wilhelm Graf und Hermut Rüdikes, Tübingen 1982

(12) Ernst Troeltsch, Die Soziallehren der christlichen Kirchen und Gruppen (=Gesammelte Schriften, Bd.I), Tübingen 1922 (3. Aufl.)